



地域・駅・新幹線ニュースレター

はっしん！新青森

青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2023年1月20日(金)
第39号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR 東日本新青森駅

青森大学社会連携センター



新青森駅では在来線改札口に、澤村郁子駅長ら社員9人が、ガッツポーズやバンザイ姿で「けっぱれ！」(津軽弁で「頑張れ」の意味)、「新青森駅は頑張る受験生を応援します」と激励するポスターを張り出しました



青森県立郷土館巡回展「あおもり旅ものがたり」

青森県立美術館で1月29日(日)まで、青森県立郷土館の巡回展「あおもり旅ものがたり」が開かれています。縄文時代から現代に至るさまざまな時代の「旅」をめぐり、バリエーション豊かな収蔵物約300点を展示しています。

巡回展は2022年の「鉄道開業150年」にちなんで企画され、むつ市と三沢市での開催を経て、青森県立美術館が最後の開催地です。

最も古い時代では、縄文時代に北海道から青森県へ運ばれてきた黒曜石の石器と緑色岩の石斧、同じく新潟県糸魚川産のヒスイの丸玉、弥生時代の同県佐渡産の碧玉で作られた管玉などが紹介されています。

時代が飛んで、昭和初期の鉄道路線図や青森駅発着の青函連絡船・列車の時刻表が並び、「考現学」で知られる今和次郎の弟で銅版画家の純三が描いた「列車風景」のスケッチなどと合わせて、当時の旅の空気感を



受験生らの「頑張り」応援

激励ポスターや絵馬を掲示

新青森駅
青森駅

新青森駅と青森駅の構内で2月下旬ごろまで、「新春応援企画」が実施されています。受験の合格祈願など、駅利用者の「今年の願い」を記載した絵馬を飾り、社員らの激励メッセージを掲示しています。

(写真左上)。その隣に、「志望校に合格しますように」などと記された駅利用者の絵馬が並んでいます。

青森駅では待合室前の通路に神社と鳥居を描いたポスターが張られ、絵馬には「国家試験に合格できますように」「東大合格」といった言葉に加えて「家族全員健康に暮らせるように」などの願いが書かれています(写真右)。

「遮光器土偶ねぶた」が人気

新青森駅の新幹線コンコース内で、縄文晩期の遮光器型土偶をかたどった「土偶ねぶた」が観光客や帰省客の人気を集めています。3年ぶりに行動規制がなかったこの年末年始、多くの人が注目し、SNSに画像をアップしていました。

遮光器型土偶は青森県つがる市の「亀ヶ岡遺跡」な



どで出だし、「シャコちゃん」の名で親しまれています。土偶ねぶたは2022年、東京駅で開かれた「縄文×青森ミュージアム」のために制作され、役割を終えた後、新青森駅に移設されました。

駅構内では、これまでもミニ青森ねぶたやミニ弘前ねぶたが展示されていましたが、土偶ねぶたの登場で青森県の文化や歴史がさらに身近になりました。

交通・観光の今昔を紹介

青森県立美術館



伝えています。

また、1891(明治24)年の東北本線全線開通に合わせて制作された「日本鉄道陸奥地方画譜」は、「青森市街大雪之図」など沿線の雪景色を描いており、当時の風景や雪国の暮らしの一端を知ることができます。

目を引くのは大正から昭和にかけて活躍した吉田初三郎が描いた八戸市の鳥瞰図の原画です。吉田は十和田湖、青森市、七戸町など青森県関係の多くの鳥瞰図を残しています。

このほか、リングや貝をあしらった旅の土産品、駅弁・お菓子のパッケージ、「青函連絡船のある風景」の写真群、セピア色の観光地の絵はがきなど、意外に目にする機会がない品々が、旅情と郷愁を誘います。

青森県立郷土館の滝本敦主任学芸主査は「コロナ禍で外出や移動が不自由な期間が続いていますが、古く



から旅の目的地であり、交流の場でもあった青森県の魅力を再発見していただければ」と話しています。

「あおもり旅ものがたり」は入場無料。なお、青森県立美術館では「コレクション展2022-3」も1月29日まで開かれています。



青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく③

3年ぶり活動を本格再開

2022年

新青森駅を拠点の一つとしている青森県立青森西高校「青西おもてなし隊」は、2022年、コロナ禍に負けず3年ぶりに本格的な活動を再開しました。生徒たちは2023年のスタートに、気持ちを新たにしています。青西おもてなし隊は東北新幹線・新青森駅開業に合わせて2010年の夏、発足しました。継続的な取り組みが評価されて、2019年度には青森県「おもてなしアワード」の県知事賞を受賞しています。

2022年8月、3年ぶりにクルーズ船の出迎えに出動



しました（写真左上）。この夏は昨年に続き、コロナ禍の合間を縫って交流が始まった北海道長万部高校生を歓迎（写真左下）。10月には新青森駅の「駅からハイキング」企画（写真中央）と「鉄道開業150年」イベントに協力しました。「三内を美しく元気にする会」会員を講師に迎えた「おもてなしフォーラム」も11月に開催しています（写真右）。

コロナ禍の行方はまだ予断を許しませんが、新年の生徒たちの活躍が期待されます。



三内丸山遺跡

SNSなど情報発信に「さんまる」が活躍中

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の中心的遺跡・三内丸山遺跡はTwitter、Instagram、FacebookなどのSNSでも活発に情報を発信しています。その「立役者」と言えるのが、マスコットキャラクターの「さんまる」です。

「さんまる」は三内丸山遺跡が2012年11月、特別史跡に決まったことを記念して制作されました。アイデアを一般から公募し、さらに三内丸山遺跡に詳しいデザイナーが現在の姿に仕上げました。遺跡から出土した縄文時代前期の「板状土偶」をかたどっていて、「4500年前の1月1日が誕生日」という設定です。

イラストは歩いている格好の「基本形」の



見学時間 9:00～17:00（入場は開館の30分前まで）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般 410円（330円）／高校・大学生等 200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0031 青森市三内字丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約20分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント

＜ネット情報＞

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



縄文芸術



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合は翌日）
※企画展開催時、展示内容により変更する場合があります。
観覧料 一般 510円（410円）／高校・大学生 300円（240円）／小学生・中学生 100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
※企画展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



お問合せ

下さい。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebook ページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いいたします。



FB ページ



Instagram



青森大学
社会連携
センター

shin-aomori@aomori-u.ac.jp

〒030-0943 青森市幸畑2-3-1 青森大学社会学部

櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731